

問1 日本の諸地域の雨温図を比較した際、年平均気温が15度前後であり、かつ年間降水量が1100mm程度と他の地域に比べて極端に少ない数値を示す地域に該当する気候区分を選びなさい。(2024年 和歌山公立入試 類似)

1. 瀬戸内の気候 2. 日本海側の気候 3. 太平洋側の気候 4. 南四国の気候

問2 川が山地から平地に流れ出る谷口付近において、上流から運ばれてきた砂や礫(小石)が堆積して形成された扇形の地形を扇状地と呼びます。この地形の斜面において、水田よりも果樹園としての利用が一般的である理由は何ですか。(2026年 福島公立入試 類似)

1. 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから  
2. 標高が非常に高く、平地よりも気温が低いため稲作に適さないから  
3. 地表付近に常に水が湧き出しており、果樹の根が腐りにくいから  
4. 周囲が山に囲まれており、稲の生育に必要な日照時間が不足しているから

問3 日本各地には、過去に発生した大規模な地震や津波の被害状況、あるいは避難の教訓を後世に伝えるために設置された石碑が数多く存在します。国土地理院がこれらの位置を地図上で示すために新設した地図記号の名称として、最も適切なものはどれですか。(2024年 広島公立入試 類似)

1. 自然災害伝承碑 2. 指定緊急避難場所 3. 重要文化的景観 4. 史跡・名勝・天然記念物

問4 アフリカ大陸を流れるナイル川と、日本の信濃川の「河口からの距離」と「標高」の関係を比較したとき、日本の河川に見られる傾向を説明したものと正しいものはどれですか。(2017年 広島公立入試 類似)

1. 信濃川はナイル川に比べて、短い距離の間で標高が急激に変化している。  
2. ナイル川は信濃川に比べて、短い距離の間で標高が急激に変化している。  
3. 信濃川はナイル川に比べて、河口から上流までの距離が長く、傾斜が緩やかである。  
4. 信濃川とナイル川を比較すると、どちらも標高の変化に大きな差は見られない。

問5 日本周辺の海底地形において、水深が約200メートルまでの平坦な広がりを持つ「大陸棚」の特徴として、水産業の観点から最も適切な説明はどれですか。(2024年 和歌山公立入試 類似)

1. 太陽光が海底付近まで届きやすくプランクトンが豊富であるため、好漁場になりやすい  
2. 水深が数千メートルに達し、プレート沈み込みによって深い溝になっているため、深海魚の宝庫である  
3. 海底からマグマが噴き出し山脈のように連なっているため、魚が産卵する場所がない  
4. 水温が極めて低く光が全く届かないため、プランクトンの増殖が抑えられ透明度が高い

問6 各自治体が作成しているハザードマップの活用方法や目的として、最も適切な説明はどれですか。(2017年 山口公立入試 類似)

1. 自然災害による被害の予測範囲を確認し、適切な避難場所や避難経路を事前に把握しておくため。  
2. 過去に発生した災害の復旧費用を算出し、住民に負担を求めめるための基礎資料とするため。  
3. 地価が高い地域の災害リスクをあえて伏せることで、都市開発を円滑に進めるため。  
4. 災害発生時に警察や消防が使用する専用の通信ルートを住民に知らせるため。

問7 地形図において、茶畑の地図記号が等高線の間隔が比較的狭い場所に多く描かれていることがあります。このような地形が茶の栽培に適している理由として、最も適切な説明はどれですか。(2020年 兵庫公立入試 類似)

1. 傾斜地は水はけが良く、根腐れを防ぐことができるため。  
2. 傾斜地は冷たい空気が溜まりやすく、害虫の発生を抑えられるため。  
3. 傾斜地は日照時間が短いため、茶の葉の乾燥を防ぐことができるため。  
4. 傾斜地は地力が強く、肥料を施す必要がないため。

問8 日本の各地で見られる台地の土地利用と、その歴史的背景を述べた文として、最も適切なものはどれですか。(2024年 香川公立入試 類似)

1. 標高が高く水の確保が困難であったため、明治時代以降に大規模な用水路が建設されるまで、開墾が進まず原野のまま残された場所が多い。  
2. 周囲に比べて標高が低く浸水被害を受けやすいため、農業には利用されず、主に防災機能を備えた公園や公共施設として整備されてきた。  
3. 常に周囲の山から水が流れ込んでくる地形であるため、特別な灌漑設備を整えることなく、古くから広大な水田地帯として発展してきた。  
4. 地表面の起伏が激しいため、機械を利用した大規模な農業には適さず、小規模な家庭菜園や牧場としてのみ利用されてきた。

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 瀬戸内の気候	日本の平均的な年間降水量は約1700mm程度ですが、瀬戸内の気候は山地に挟まれた地形的要因から雨が非常に少なく、1000mm~1200mm程度にとどまることが特徴です。これに対し、南四国や太平洋側は夏の降水量が極めて多く、日本海側は冬に降水量（雪）が多くなるため、年間降水量は瀬戸内よりも格段に多くなります。
問2	<b>答え 1</b> 砂や礫が堆積して層を成しているため、水はけが非常に良いから	扇状地は、川の勢いが弱まる谷口に大きな粒の砂や小石が積み重なってできています。このような地質は雨水が地下に浸透しやすく、非常に水はけが良いという特徴があります。水もちが悪い（水が溜まりにくい）ため、水を大量に必要とする水田には不向きですが、ブドウやモモなど乾燥した環境や排水の良さを好む果樹の栽培には非常に適しています。
問3	<b>答え 1</b> 自然災害伝承碑	過去の災害の教訓を地域住民に伝え、防災意識を高める目的で設置された石碑を「自然災害伝承碑」と呼びます。2019年から国土地理院の地形図において新しい地図記号として採用されました。これにより、過去の被災状況を地図上で容易に確認できるようになり、避難計画の策定などに役立てられています。
問4	<b>答え 1</b> 信濃川はナイル川に比べて、短い距離の間で標高が急激に変化している。	広大な大陸を流れるナイル川のような大河川は、長い距離をかけてゆっくりと標高が下がるため傾斜が緩やかです。対して日本の信濃川などは、短い流路の中で一気に山地から海へと流れ落ちるため、断面図を描いた際には急激な傾斜を示すこととなります。
問5	<b>答え 1</b> 太陽光が海底付近まで届きやすくプランクトンが豊富であるため、好漁場になりやすい	大陸棚は水深が浅いため、光合成を行う植物プランクトンが活発に増殖します。これを餌とする小さな魚や、さらにそれを食べる大きな魚が集まるため、好漁場（バンク）が形成されます。一方で、選択肢にある深い溝状の地形は「海溝」と呼ばれ、大陸棚とは異なる特徴を持ちます。
問6	<b>答え 1</b> 自然災害による被害の予測範囲を確認し、適切な避難場所や避難経路を事前に把握しておくため。	ハザードマップは、あらかじめ被害が想定される区域を示すことで、迅速かつ安全な避難行動につなげるためのものです。災害が発生してから確認するのではなく、日常的に避難場所や避難経路を確認し、家庭や地域での備えを促す役割を担っています。
問7	<b>答え 1</b> 傾斜地は水はけが良く、根腐れを防ぐことができるため。	茶の栽培には、水分を必要としながらも「水はけ（排水）」が良い土地が適しています。地形図上で等高線の間隔が狭い場所は、平地ではなく傾斜のある地形（斜面）であることを示しており、雨水が滞留しにくい茶の栽培に適した条件を備えています。逆に、水持ちの良さが求められる水田は、等高線の間隔が広い平坦地に多く見られます。
問8	<b>答え 1</b> 標高が高く水の確保が困難であったため、明治時代以降に大規模な用水路が建設されるまで、開墾が進まず原野のまま残された場所が多い。	台地は水を得ることが難しい「水利の悪さ」が長年の課題でした。静岡県牧之原や青森県三本木原のように、江戸時代までは原野だった場所が、明治時代以降の掘削技術の向上や大規模な灌漑事業によって、ようやく広大な茶園や畑作地として開発された例が多く見られます。このように、台地の土地利用は灌漑技術の進歩と深く関わっています。